

6. 医学系研究科

I	医学系研究科の教育目的と特徴	6 - 2
II	分析項目ごとの水準の判断	6 - 4
	分析項目 I 教育の実施体制	6 - 4
	分析項目 II 教育内容	6 - 6
	分析項目 III 教育方法	6 - 8
	分析項目 IV 学業の成果	6 - 10
	分析項目 V 進路・就職の状況	6 - 11
III	質の向上度の判断	6 - 13

I 大学院医学系研究科の教育目的と特徴

(目的)

教育機関として人材育成を推進するとともに、地域の医療機関の先導的な役割を担いながら、国内外の医療機関及び教育機関や研究機関との交流や相互理解を深め、倫理観のある先端医療の研究機関の一翼を担う。

[医学系研究科医科学専攻]

博士課程は、高度で先進的・学際的・創造的な探求心を持続し、人間性豊かな教育者及び研究者並びに先端医療の知識・技術と倫理観をもつ臨床医の育成を教育上の目的とする。

[医学系研究科再生医科学専攻]

博士前期課程は、先端的再生医科学の知識や技術に基づき生命科学、再生工学の専門性を身に付けた高度専門職業人の育成を教育上の目的とする。また、博士後期課程は、高度な再生医科学の知識・技術のみならず生命倫理にも精通した研究者及び再生臨床医の育成を教育上の目的とする。

[医学系研究科看護学専攻]

修士課程は、看護における研究課題の探求資質をもち、倫理観や科学的思考力に裏打ちされた高度な看護を実践できる人材の育成を教育上の目的とする。

(特徴)

[医学系研究科医科学専攻]

医科学専攻入学者は、医（歯）学部卒業者並びに修士課程修了者及びそれと同等の学力を有する者である。平成14年度改組を行い、高度先端医療を担う医師や高度専門職業人を目指すA（基盤）コースと大学院教育や研究者を目指すB（進展）コースの2コースを設定し、学生には入学後自身の進路に合わせて選択させている。Aコースは、専攻する領域の専門科目の履修に重点を置き、Bコースは専攻する主領域と選択領域の2つの専門科目の履修に重点を置いている。また、両コースとも医科学研究の多くが生態系に及ぼす影響が多大であると認識し、生命倫理学を全ての学生に必修とし、倫理観を備えた人材育成に努力している。

なお、平成17・18年度に学生アンケートを実施し、その分析結果に基づき、志望した分野の専門科目の履修を重視し論文作成にかかる学修を単位化するカリキュラムに改正した。新カリキュラムは、平成19年度入学生から実施している。

[医学系研究科再生医科学専攻]

再生医科学専攻は、5年一貫教育課程でありその内、理学部、工学部等の学部卒業生が入学する博士前期課程と修士課程修了者及び同等の学力を有する者が入学する博士後期課程がある。同専攻は医学、生命工学、情報工学並びに生命倫理学を研究対象とする。組織・器官発生的な学問体系に加え、臨床応用するための再生工学・再生応用・倫理学の学問体系よりなる。理工系学部等の出身者に講義や演習を通じて分子生物科学・生命工学・情報工学等の分野で再生医科学の視点から活躍できる学際的な研究者及び高度専門職業人を育成することを目的とする。

なお、本専攻も医科学専攻と同様にカリキュラムの改正を行い、平成19年度入学生から実施している。

[医学系研究科看護学専攻]

看護学専攻入学者は、看護系学部卒業者及びそれと同等の学力を有し、かつ、生涯を通じ専門職業人として看護学への追究心や創造性、応用性に強い意欲を持つ者である。同専

攻の教育課程は、臨地実践能力をもつ看護職、基礎的研究能力をもつ看護職、看護教育能力をもつ看護職を育成することを目指して編成されている。

授業科目は、共通科目と専門科目で構成し、学生が主体的に看護活動の実践・教育・研究に必要な基礎的能力を体得していくために必要な科目が修得できるように科目設定を行っている。

共通科目のうち、看護専門領域研究の基礎となる科目として、看護学研究方法論、看護理論の2科目を必修として設定し、さらに看護学の基本となる科目として医療・福祉の経済論、看護情報学、生命倫理学など11科目を選択として設定している。専門科目は看護学教育、実践看護学の各領域の専門にかかる理論・研究・実践の諸概念に関する科目として特論、特別演習、特別研究を設定している。

また、現職の看護系職員が、専門職業人として生涯にわたり看護学への追究ができるように、昼夜開講制を実施し、長期履修にも対応できるようにカリキュラム編成を行い、多様な人材育成の目的に取り組んでいる。

(想定する関係者とその期待)

本研究科は、医学、再生医科学及び看護学の観点に立つ大学院レベルの教育機関である。このことから、想定する関係者は、次の3者が考えられる。

第一に、基礎となる医(歯)学部・生命工学及び画像工学系工学部及び看護系学部の卒業生が想定される。これら学部卒業生は、学部教育では得られない専門的かつ最新の研究課題に対し、世界に通じる卓越した医学研究、先進的な診療や看護研究等を通して指導を受けることができる。したがって大学院への進路選択希望者からは、地域社会や医療機関において探究心旺盛で卓越した専門知識を備えたリーダー養成機関として期待されている。

次に、就職先となる医療系の高等教育機関や医療機関、並びに関連する企業が想定される。これらの機関からは、高度で先端的・学際的研究を推進し、将来の医学や看護を担うリーダーとなる優れた研究者、臨床医、看護職並びに現代医療に対応できる医療行政の専門家を養成することを期待されている。

最後に、教育及び研究の成果の享受対象となる地域社会及び共同研究機関が想定される。医療や看護の提供を受ける地域社会及び医学の研究機関で、リサーチマインドの高い研究成果の創出及び科学的根拠に基づいた医療や看護等を実践できる人材養成が期待されている。

II 分析項目ごとの水準の判断

分析項目 I 教育の実施体制

(1) 観点ごとの分析

観点 基本的組織の編成

(観点に係る状況)

本研究科は、表 1-1-1 に示すとおり、医科学専攻、再生医科学専攻及び看護学専攻の 3 専攻から構成され、それぞれの専攻の教育研究の目的が定められている。

医科学専攻（博士課程）、再生医科学専攻（博士後期課程）

医科学専攻は、分子・構造学講座、病態制御学講座、神経統御学講座、腫瘍制御学講座及び医療管理学講座の 5 講座 41 分野から構成されている。それぞれの講座は、相互に関連した 7～9 の分野が集結している。

再生医科学専攻は、再生分子統御学講座、再生工学講座及び再生応用学講座の 3 講座 8 分野から構成されている。それぞれの講座は、相互に関連した 2～3 分野が集結している。同専攻は、5 年一貫教育体制の博士課程である。両専攻とも、各分野に研究指導教員及び研究補助教員を配置し、大講座による幅広い教育環境を提供し、それぞれの目標の下に充実した教育課程を実現している。

また、平成 19 年度からは、がんプロフェッショナル養成プランに基づき、化学療法の専門医を養成することを目的とし、臨床腫瘍学分野を新設して博士学位の取得と専門医取得を目指す人材養成を開始した。

さらに、次世代の医学教育指導者育成が時代の要請となっていることから、医学教育学分野の設置を予定している。

このように、社会のニーズに対応して、分野の拡充と改組に取り組み、表 1-1-2 に示すとおり、教員の配置状況も設置基準を満たし適切である。

再生医科学専攻（博士前期課程）

再生医科学専攻は、再生分子統御学講座、再生工学講座及び再生応用学講座の 3 講座 8 分野から構成されている。それぞれの講座は、相互に関連した 2～3 分野が集結している。同専攻は、5 年一貫教育体制の博士課程である。教員組織は博士後期課程と博士前期課程の両課程を担当している。したがって、表 1-1-2 に示すとおり、教員の配置状況も設置基準を満たし適切である。

看護学専攻

看護学専攻は、看護学教育領域と実践看護学領域の 2 領域 4 分野で構成され、表 1-1-2 に示すとおり、教員の配置状況も設置基準を満たし適切である。看護学教育と看護実践面での課題を自発的・具体的に研究し、質の高い看護の実践活動を養う教育環境を提供している。

表 1-1-1 医学系研究科の構成

課程	専攻等名	専修・講座数等	教育研究の目的
博士課程	医科学専攻	5	医科学専攻にあつては、高度で先進的・学際的・創造的な探求心を持続し、人間性豊かな教育者及び研究者並びに先端医療の知識・技術のみならず研究遂行上不可欠な倫理観をもつ臨床医を育成することを教育上の目的とします。
博士前期課程	再生医科学専攻	3	再生医科学専攻（博士前期課程）にあつては、先端的再生医科学の知識・技術に基づき生命科学、再生工学、生命倫理の専門性を身に付けた高度に専門的な職業人を育成することを教育上の目的とします。
博士後期課程	再生医科学専攻	3	再生医科学専攻（博士後期課程）にあつては、高度な再生医科学の知識・技術のみならず生命倫理にも精通した研究者及び再生臨床医を育成することを教育上の目的とします。
修士課程	看護学専攻	2（領域）	看護学専攻にあつては、看護における研究課題の探求資質をもち、倫理観や科学的思考力に裏打ちされた高度な看護を実践できる資質をもった人材を育成することを教育上の目的とします。

(出典：医学系研究科ホームページ)

表 1-1-2 教員配置数

(平成 19 年 5 月 1 日、単位：人)

	現 員			設置基準で必要な研究指導教員 及び研究指導補助教員		
	指導教員数		研究指導 補助教員数	指導教員数		研究指導 補助教員数
	小計	教授数 (内数)		小計	教授数 (内数)	
医科学専攻	91	38	16	30	-	30
再生医科学専攻	18	14	10	6	-	6
看護学専攻	16	12	5	6	4	6
合計	125	64	31	42	4	42

(出典：医学系研究科・医学部・医学部附属病院概要)

観点 教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制

(観点に係る状況)

医科学専攻（博士課程）、再生医科学専攻（博士前期課程、博士後期課程）

医科学専攻及び再生医科学専攻は、3 課程にかかる教育課程、履修及び試験等の教学について、審議を行う医学研究科学務委員会を設置している。この委員会は、夏季休暇中の 8 月を除き毎月 1 回定期的に、必要に応じ臨時にも開催している。

委員会構成は、教授会で選出された教授 1 名（委員長）、医科学専攻の 5 講座及び再生医科学専攻から選出された教授、並びに准教授・講師会から選出された 3 名、計 10 名からなっている。

特に平成 18 年度は、前年度末に実施した「医学研究科授業評価アンケート」により、A、B コースに大別した履修から志望した専門領域をより重厚に履修できる方法に変更し、論文作成にかかる特別研究を単位化するようカリキュラム整備を行った。これにより、平成 19 年度学生から新カリキュラムで実施している。

また、教育方法の改善に向けては、同委員会が平成 19 年度から医学研究科の FD の企画・実施及び評価に取り組んでいる。

看護学専攻

看護学専攻では、修士課程の教育課程、履修及び試験等の教学について、審議を行う看護学専攻学務委員会を設置している。この委員会は、夏季休暇中の 8 月を除き、毎月 1 回定期的に開催している。

委員会構成は、看護学専攻の 4 分野から選出された教授、専攻内の准教授及び講師から選出された者 1 名及びその他看護学専攻長が必要と認めた者としている。

特に教育方法の改善に向けては、看護学科及び看護学専攻が一体となり看護学科 FD 委員会を設置している。一体化の目的は、教員個人が学部教育と大学院教育の両方について同時に改善を図るためである。

なお、学務委員会は、平成 18 年度当初に「岐阜大学大学院医学系研究科看護学専攻学生アンケート」を実施した結果、カリキュラムや教育内容に満足している一方、一部の科目の「開講期の変更」「夏季集中開講」等の意見が多く、次年度の時間割に反映させた。

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準にある

(判断理由)

医科学専攻（博士課程）、再生医科学専攻（博士前期課程、博士後期課程）

教員配置について大学院設置基準を満たし適切である。また、基本的組織編成、教育内容は大学院設置基準のとおり実施している。平成 19 年度入学生から教育内容、特にカリキュラム改正に基づく新教育課程で実施しており、教育内容の改善に向けて取り組んでいる。

このことは、平成 17 年度末に実施した「医学研究科授業評価アンケート」の分析結果に基づいたものである。改正後は、在学期間中の志望した専門領域をより重厚にしたことが特徴であるため、本研究科に期待を寄せる採用予定機関の長や地域及び社会のニーズに充分応えているものと判断できる。

看護学専攻

教員配置について大学院設置基準を満たし適切である。また、基本的組織編成、教育内容は基準のとおり実施している。平成 18 年度の「岐阜大学大学院医学系研究科看護学専攻学生アンケート」結果をもとに、看護学専攻学務委員会において授業科目の開講時期や教育内容を検討し、改善に向けて取り組んでいる。

分析項目Ⅱ 教育内容

(1) 観点ごとの分析

観点 教育課程の編成

(観点に係る状況)

医科学専攻（博士課程）、再生医科学専攻（博士後期課程）

教育課程の編成は、表 2-1-3 に示すとおり、共通科目及び専門科目からなる。特に専門科目は、体系的な履修ができる編成としている。平成 19 年度からは志望した専攻分野の必要単位数を多くし、実質的な編成となっている。博士論文作成に必要な研究活動を特別研究として単位化している。なお、現在の教育課程に基づく授業及び研究指導は授与する学位やアドミッション・ポリシーに示す教育研究者あるいは高度専門臨床医の養成に応えるものとなっている。

再生医科学専攻（博士前期課程）

教育課程の編成は、表 2-1-3 に示すとおり、共通科目及び専門科目からなり、体系的な履修ができる編成となっている。修士論文作成に必要な研究活動が特別研究として単位化され、学位やアドミッション・ポリシーに示す高度専門職業人の養成に応えるものとなっている。個別の授業は、高度専門職業人に必要とされる科目で構成されている。授業内容は、教育課程の編成趣旨にあったものとなっている。

看護学専攻

教育課程の編成は、表 2-1-3 に示すとおり、共通科目、専門科目及び各分野の特別研究からなり、体系的な履修ができる編成としている。個別の授業は、看護専門職に必要とされる科目で構成されている。授業内容は、教育課程の編成趣旨にあったものとなっている。

表 2-1-3 大学院研究科の教育目的と教育課程の編成

	教育目的（養成しようとする人物像）	教育課程の構成	授与する学位
医科学専攻 （博士課程）	医学研究と医療における国際的通用性の高い人材養成システムの確立、研究成果の地域並びに国際社会への発信と展開及び生命医科学研究の臨床医学への応用等を達成し、高度先進医学・医療の発展という社会のニーズを実現するための教育研究体制の確立を目標としている。それにより高度で先端的・学際的・創造的研究を推進し、将来の医学を担うリーダーとなるべき優れた生命医科学研究者・臨床医学研究者・生命医学教育者及び高度な医学的素養を身に付けた臨床医並びに急速に発展している現代医療に対応できる医療行政専門家を養成する。	共通科目及び専門科目から成り、体系的な履修ができる編成としている。	博士 （医学）

<p>再生医科学専攻 (博士前期課程)</p>	<p>先端的再生医科学の研究・教育を行います。それにより分子生物学、生命・情報工学、臨床医学及び社会医学の各分野で再生医科学を中心的に担うことのできる知的創造性・専門性と共に倫理性・人間性・社会性・国際性の豊かな研究者並びに高度専門的職業人の両者を養成します。</p>	<p>共通科目及び専門科目から成り、体系的な履修ができる編成としている。</p>	<p>修士 (再生医科学)</p>
<p>再生医科学専攻 (博士後期課程)</p>	<p>先端的再生医科学の研究・教育を行います。それにより分子生物学、生命・情報工学、臨床医学及び社会医学の各分野で再生医科学を中心的に担うことのできる知的創造性・専門性・倫理性・社会性と共に、再生医科学・医療の発展に貢献する判断力、実行力及び独創性に富む人間性豊かな研究者並びに高度専門的職業人の両者を養成します。</p>	<p>共通科目及び専門科目から成り、体系的な履修ができる編成としている。</p>	<p>博士 (再生医科学)</p>
<p>看護学専攻 (修士課程)</p>	<p>日々進歩する医療の知識・技術、人々の健康への多様な要求に対し、専門性が高く質の良いサービスを提供するためにも、全人的医療を担い得る豊かな感性と人間性を備えた人材が求められています。このような要望に応えるため、看護学専攻では高い倫理観や科学的思考力を備えた人材を育てると共に、学際的視野を広げ、看護学と看護実践面での課題を自発的・具体的に研究し、質の高い看護の実践能力を養うことを目標とします。</p>	<p>共通科目、専門科目から成り、体系的な履修ができる編成としている。</p>	<p>修士 (看護学)</p>

(出典：医学系研究科ホームページ、便覧等)

観点 学生や社会からの要請への対応

(観点到に係る状況)

医科学専攻 (博士課程)、再生医科学専攻 (博士後期課程)

社会人が多いため、大学院設置基準第 14 条特例の昼夜開講制による授業を実施している。特に志望分野の演習科目等は夜間の開講を主としている。共通科目、学際科目等は夏季集中及び土曜日集中により開講し、社会人学生に対応できるよう配慮している。

次にアンケート調査結果を反映させた新カリキュラムでは、演習やセミナー形式による授業内容の重厚化を実施していると共に授業形態も少人数教育が大半を占めている。さらに、社会からの要請として、日進月歩する知識・技術は医学も同様である。昨今、遺伝子あるいは分子レベルでの病因追求ならびに治療が求められている現状から、最新の研究動向を把握できるように工夫している。

また社会からの要請としては、名古屋市立大学をはじめ、岐阜薬科大学及び京都大学といった他大学大学院研究科と初めて協定を締結し、相互に特別研究学生の受入指導を実施できる体制を強化した。

再生医科学専攻 (博士前期課程)

共通科目、学際科目等は夏季集中及び土曜日集中により開講し、社会人学生に対して、さらに学生のニーズに対応できるよう配慮している。またアンケート調査結果を反映させた新カリキュラムでは、演習やセミナー形式による授業内容の重厚化を実施していると共に授業形態も少人数教育が大半を占めている。さらに、社会からの要請として、日進月歩する知識・技術は再生医科学も同様である。特に、医工連携による視点からの画像工学や分子プローブ設計による創薬開発研究は、多くの臨床データや研究機関との共同研究を通して最新の研究動向を把握できるように工夫している。

看護学専攻

一部の分野において講義科目の授業内容が多岐にわたることから、在学生より見直しの要請があった。また、平成 19 年 4 月から、文部科学省の設置基準に準じた大学院担当教員の資格審査を行い、平成 20 年度入学生から研究指導を専門的に実施できるよう教育組織編成を充実させている。

また、医科学専攻等と同様に、社会人学生に対し大学院設置基準第14条特例の昼夜開講制並びに夏季集中及び土曜日集中により開講し、社会人学生に対応できるよう配慮している。さらに、社会からの要請に応えられるよう、科学的思考力及び学際的な視野から看護研究の実践を通じた修士論文作成能力を向上させるため、研究構想発表会及び修士論文倫理審査委員会での審査を積極的に指導している。

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準にある

(判断理由)

医科学専攻（博士課程）、再生医科学専攻（博士前期課程、博士後期課程）

両専攻とも医科学、再生医科学に欠かせない生命倫理に主眼をおいた学際科目を必修化し、両専攻とも医学の基礎となる科目を共通科目や専門科目として他専攻の授業科目の単位を認定している。

さらに、平成17年度末の「医学研究科授業評価アンケート」結果の検討を経て、19年度入学生から志望分野の専門科目の積み重ねができるよう教育課程の編成を改善してきた。その結果、新カリキュラムの編成内容、少人数教育及び最新の研究動向を常に把握できる履修内容は、前掲の表2-1-3の教育目的に合致した知識・技術を習得させるものとなっている。

看護学専攻

看護学専攻は、現在体系的な履修ができる編成としている。現行カリキュラムについて、修了生及び在学生、教員の意見に基づいた見直しをして、さらにカリキュラムの改善に取り組んでいる。

さらに、指導教員は学生に対して科学的思考力及び学際的な視点から倫理的な配慮に基づく論文作成ができるよう取り組んでいる。その結果、前掲の表2-1-3の教育目的に合致した知識・技術を習得させるものとなっている。

分析項目Ⅲ 教育方法

(1) 観点ごとの分析

観点 授業形態の組合せと学習指導法の工夫

(観点到に係る状況)

医科学専攻（博士課程）

表3-1-4に示すとおり、講義、演習、その他（セミナー）及び特別研究から構成され、授業形態の組み合わせ並びにバランスは保たれている。なお、平成19年度からはカリキュラム改正前の実習に代わって講義と実習を組み合わせたセミナーを開講している。また、表3-1-5～6に示すとおり少人数授業と対話型授業を実践している。なお、臨床系分野の演習やセミナーの一部は、附属病院での診療や手術が含まれる。設置目的ならびに人材養成目的に適した授業形態である。

再生医科学専攻（博士前期課程、博士後期課程）

表3-1-4に示すとおり、講義、演習、その他（セミナー）及び特別研究から構成され、授業形態の組み合わせ及びバランスは保たれている。また、表3-1-5～6に示すとおり少人数授業と対話型授業を実践している。設置目的ならびに人材養成目的に適した授業形態である。

看護学専攻

各専攻分野に必修科目として特論、演習、特別研究を設定し、表3-1-5～6に示すとおり少人数、対話・討論形式により実施している。設置目的ならびに人材養成目的に適した授業形態である。

表3-1-4 大学院における授業形態別開設授業数 (平成19年度)

		講義	実験	演習	実習	その他
博士課程	医科学専攻	85	0	97	0	38
博士前期課程	再生医科学専攻	11	0	15	0	7
博士後期課程	再生医科学専攻	2	0	14	0	0
修士課程	看護学専攻	30	0	9	0	0

(出典：医学系研究科シラバスより)

表3-1-5 少人数授業の科目数、クラス数、受講者、単位を表す表 (平成19年度)

課程	科目数	クラス数	受講者数(人)	単位数	主な授業科目
博士課程	159	190	751	235	細胞情報学
修士課程	31	55	109	62	看護学研究方法論
博士前期課程	26	41	147	47	生命工学
博士後期課程	9	14	35	15	基礎臨床再生医学

(単位数は、科目数に係る合計単位数を表す。)

(出典：医学系研究科シラバスより)

表3-1-6 対話・討論型授業の科目数、クラス数、受講者、単位を表す表 (平成19年度)

課程	科目数	クラス数	受講者数(人)	単位数	主な授業科目
博士課程	38	51	215	76	細胞情報学演習
修士課程	4	8	8	16	母性看護学特別演習
博士前期課程	7	11	18	22	組織・器官発生演習
博士後期課程	7	12	22	13	知能イメージ情報応用演習

(単位数は、科目数に係る合計単位数を表す。)

(出典：医学系研究科シラバスより)

観点 主体的な学習を促す取組

(観点に係る状況)

医科学専攻(博士課程)、再生医科学専攻(博士前期課程、博士後期課程)

研究指導教員及び研究助言教員による個別の対応により、学生の論文指導を行っている。研究指導教員は、学生に共同の研究室やスペースを与えると共に、一人1台のパソコンを用意し、学習環境を整備している。また、時間外でも研究できるようICカードにより入退室の安全を確保している。

看護学専攻

主指導教員及び副指導教員による個別の対応により、学生の論文指導を行っている。講義室の他に院生室を2部屋用意し、統計解析ソフトを組み込んだコンピュータを設置し、時間外でも自主的に学習できる環境の確保とICカードによる安全な入退室に配慮している。また、学位論文作成までの流れと論文の書き方を示した小冊子を作成し、主体的学習をサポートしている。

(2)分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準にある

(判断理由)

医科学専攻(博士課程)、再生医科学専攻(博士前期課程、博士後期課程)

講義・演習・セミナー及び特別研究の比率が各専攻における教育目標を到達できるものとなっている。適切な授業形態の組み合わせ及び主体的な学習状況である。

看護学専攻

講義・演習及び特別研究の比率が各専攻における教育目標を到達できるものとなっている。適切な授業形態の組み合わせ及び主体的な学習状況である。

分析項目Ⅳ 学業の成果

(1) 観点ごとの分析

観点 学生が身に付けた学力や資質・能力

(観点に係る状況)

医科学専攻（博士課程）、再生医科学専攻（博士後期課程）

学位論文は、和文又は英文学術雑誌に掲載又は掲載が確約されている。大部分は、審査有の英文学術雑誌に掲載が確定したものである。表4-1-7に示すとおり、平均すると学生一人年1回の学会発表を行なっている。このことは、在学期間中の授業や研究指導の成果が口頭発表に至り、博士課程や博士後期課程にふさわしい学力や資質を有している。

再生医科学専攻（博士前期課程）

修士論文は、公開による発表会を経て審査している。公開発表時の質疑にも充分に回答していることから、博士前期課程にふさわしい学力や資質を有している。

看護学専攻

修士論文は、審査委員による審査を受け、その後、公開による発表会を行なっている。公開発表時の質疑にも充分に回答していることから、修士課程にふさわしい学力や資質を有している。

表4-1-7 学生による学会発表者数 ()内は国外で内数

	16年度	17年度	18年度	19年度
医学系研究科	247名(29名)	264名(18名)	256名(26名)	279名(54名)

(出典：自己点検評価報告書)

表4-1-8 論文発表数 ()は審査有を内数

	17年度	18年度	19年度
博士課程	99(79)	106(91)	83(75)
博士(前期)課程	18(6)	13(4)	14(3)
博士(後期)課程	36(24)	33(31)	34(26)
修士課程	0	0	0

(出典：自己点検評価報告書)

観点 学業の成果に関する学生の評価

(観点に係る状況)

医科学専攻（博士課程）、再生医科学専攻（博士後期課程、博士前期課程）

学業の成果は前掲表4-1-7に示すとおり、活発な学会発表が行なわれている。在籍者数比では学生一人平均1回の発表になる。これら教育・研究の成果を学外で発表し、発表を通じて参加者から批判を受け止め、さらに研究を推進することができている。このことは、学生自身が研究成果を直接評価される機会に自ら積極的に取り組んでいる結果である。

看護学専攻

若干名が、国内の学会発表を行い、学生自身が研究成果を直接評価される機会を得るよう自ら積極的に取り組んでいる。

なお、看護学専攻学務委員会は、平成18年度のアンケートの結果、「学びは科学的思考に基づいた自らの専門性を高めている」、「大学院生活が有意義で充実している」ことから入学前と対比すると成果が出ていると伺える。一方、「学業の成果を厳格に評価してほしい」等の意見もあり、さらに改善に向けて、看護学専攻学務委員会で検討中である。

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準にある

(判断理由)

医科学専攻（博士課程）、再生医科学専攻（博士前期課程、博士後期課程）

前掲の表4-1-7～8に示すとおり、学会発表者数及び論文発表数を在学生との対比でみると、学生一人あたり年1回の学会発表及びレフリー付学術雑誌への論文投稿が行なわれていると判断する。

また、学会発表及び審査有学術雑誌に投稿する行為そのものが参加者（査読委員）からの批判を受け止め、即座に対応する能力を必要とされている点からも、在学期間中に修得した知識及び能力が十分に備わっていると判断する。

看護学専攻

修了者の現状やアンケート結果から、大学院生が学業成果に対して肯定的に自己評価をしていると判断する。現在、アンケート結果に基づき、看護学専攻学務委員会では改善に向けて検討中である。

分析項目Ⅴ 進路・就職の状況

(1) 観点ごとの分析

観点 卒業(修了)後の進路の状況

(観点到に係る状況)

医科学専攻（博士課程）、再生医科学専攻（博士後期課程）

在学中の活動状況から見て、自律した研究活動の結果、大学情報データベース資料A2-2007 入力データ集：No4-8 就職者（職業別）に示すように教育機関やより専門性の高い医療機関に就職している。このことから教育の成果が上がっていると推測できる。

再生医科学専攻（博士前期課程）

大学情報データベース A2-2007 入力データ集：No4-8 就職者（職業別）に示すように、生命科学関連の研究職や IT 関連企業への就職者が多いことから、専門性の高い研究機関や企業等に就職している。

看護学専攻

第一期2名、第二期11名は産業別分類の看護師等と看護系教育機関にほぼ同数が就職している。したがって、看護教育職及び看護専門職人の育成ができています。

観点 関係者からの評価

(観点到に係る状況)

医科学専攻（博士課程）、再生医科学専攻（博士後期課程、博士前期課程）

岐阜大学医学部附属病院関連病院長会議及び県内医師会から修了者の招聘要請が強く、必要な人材を輩出できている。地域医療を含め、医師免許を有する修了者が一層の医療の均てん化を図れるよう努力をしている。

一方、医師免許を有していない博士前期課程課程修了者は、関係する産業界において研究者又は高度専門技術者として採用されている。一部の学生は、博士後期課程の進学状況から、将来は研究者として期待できるものと判断する。

看護学専攻

設置後間もないため修了者数が限定されているが、教育機関や医療機関及び地域住民の健康や福祉を担う行政並びにサービス機関などの期待に沿う修了（予定）者を輩出できおり、高度な看護に関する知識・技術を有する人材の養成に努力している。

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準にある

(判断理由)

医科学専攻（博士課程）、再生医科学専攻（博士後期課程）

大学情報データベース資料 A2-2007 入力データ集：No 4－8 就職者（職業別）に示すように教育機関やより専門性の高い医療機関等への就職ができている状況から、教育目的や地域及び社会の期待に応えられる結果であると判断する。

再生医科学専攻（博士前期課程）、看護学専攻

大学情報データベース資料 A2-2007 入力データ集：No 4－8 就職者（職業別）に示すように専門性の高い企業・研究機関及び医療機関へ就職していることから教育目的や社会及び地域の期待に応えられる結果であると判断する。

看護学専攻において、特に社会人学生が入学前と課程修了後の職位や職種を分析すると、看護師長から他病院の看護部長、同一病院内で看護師長への昇任及び看護学系学部を始めとする教育機関の教員採用がある。これらは、修了者が在学中に得た知識・技術等を新しい職位や職場での期待感も含まれると推察する。

Ⅲ 質の向上度の判断

①事例1「教育の実施体制」(分析項目Ⅰ)

平成19年度がんプロフェッショナル養成プランに基づき、医科学専攻に臨床腫瘍学分野を設置し、2名が入学試験に合格した。

また、次世代の医学教育指導者を育成する事が時代の要請となっている状況から、医学教育の研究者を養成するため、医学教育学分野を平成20年度から新設し、1名が入学試験に合格した。

このように、広く社会や地域のニーズを反映した取組みを行い、教育の実施体制の強化がなされた。

②事例2「教育内容及び教育方法」(分析項目Ⅱ及びⅢ)

医科学専攻及び再生医科学専攻では、平成17年度末に実施した「医学研究科授業評価アンケート」を検討した結果、平成19年度入学生から新教育課程で履修を開始した。これは、専攻分野の単位を学年進行に伴い積み重ねるカリキュラムであり、特別研究の単位化が可能となった。また、看護学専攻では、学生ニーズ等に対応した更なるカリキュラム改善等を平成21年度入学生から想定し、検討を開始している。

さらに、名古屋市立大学をはじめ、他大学大学院研究科と初めて協定を締結し、特別研究学生の受入指導を実施できる体制を強化した。これにより、特別研究学生の研究指導を充実させることができた。